

### △ 警告 (けいこく)

保護者の方へ 必ずお読みください。

- 小部品があります。誤飲・窒息の危険がありますので、3才未満のお子様には絶対に与えないでください。

《組み立てる時の注意》●組み立てる前に説明書をよく読みましょう。  
●部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。●塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

### △ 注意 (ちゅうい)

- 緑部が鋭い箇所がありますので、注意してください。●先端が尖っている箇所がありますので、注意してください。
- 部品はきれいに切り取り、切り取ったあとのクズは捨ててください。●袋を頭からかぶったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。

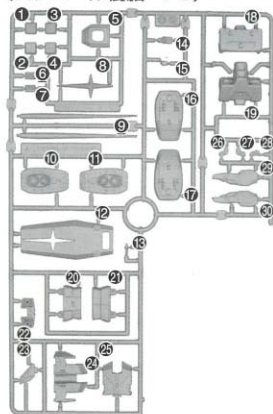


## RX-78-2 ガンダム パーツリスト

(X印は使用しないパーツです。)

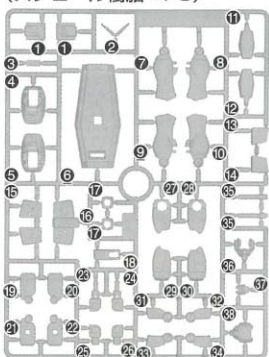
### Aパーツ

(スチロール樹脂: PS)



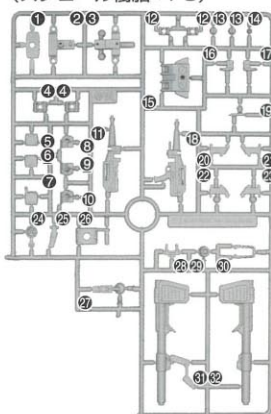
### Bパーツ

(スチロール樹脂: PS)

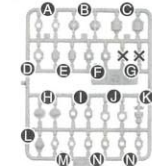


### Cパーツ

(スチロール樹脂: PS)

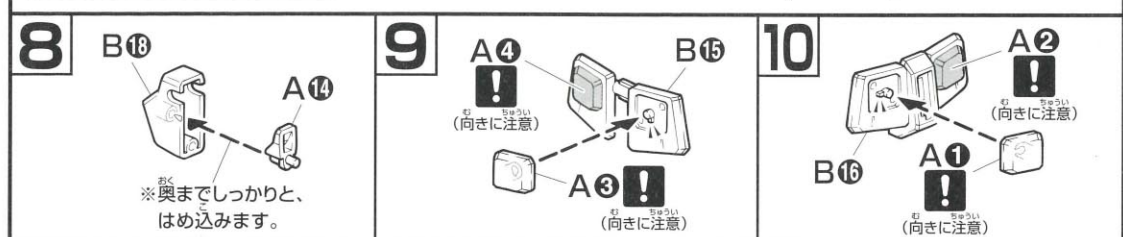
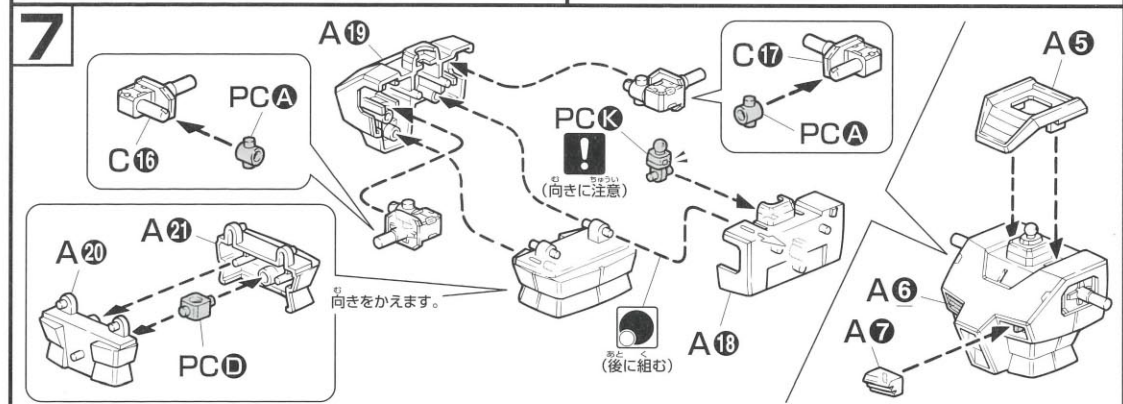
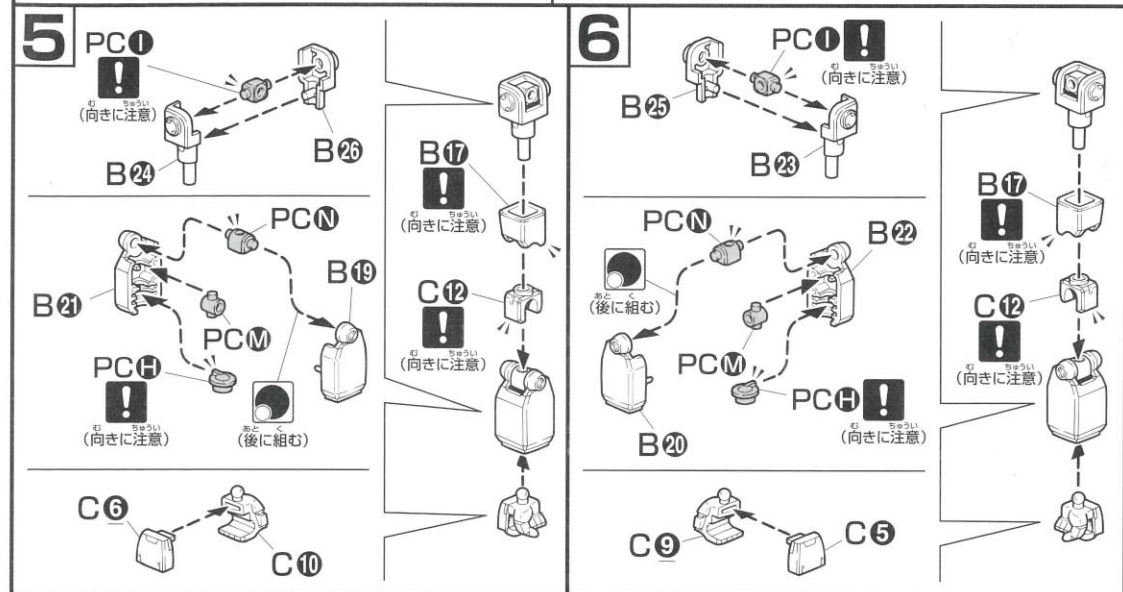
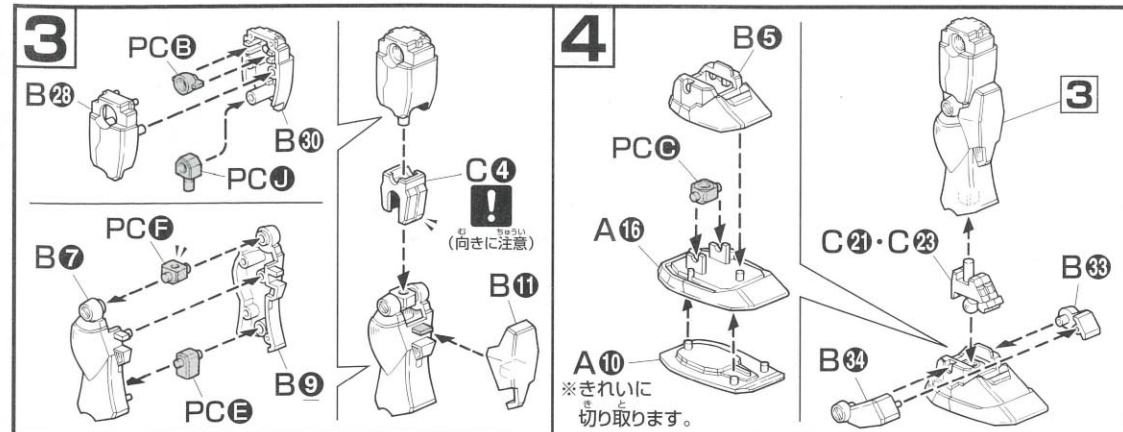
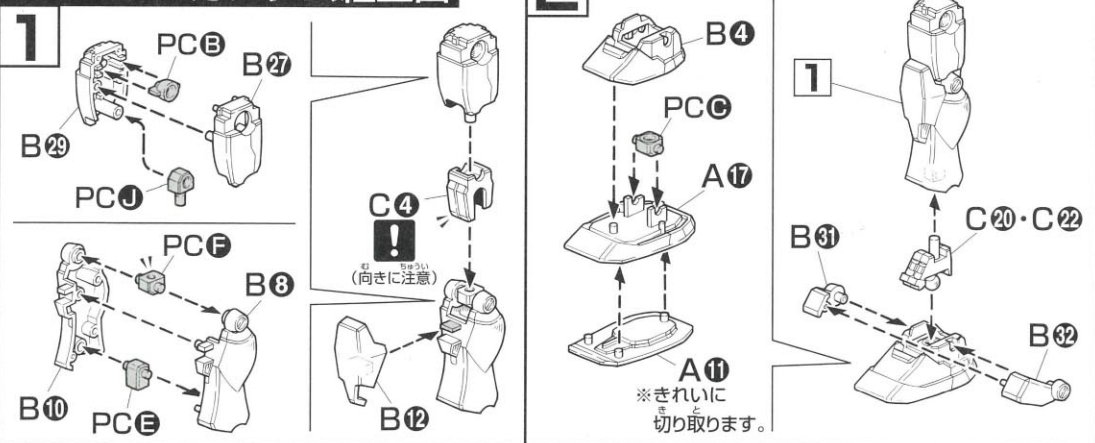


(PC-123プラス)  
(ポリエチレン: PE)



- ガンプラHOWtoガイド.....1
- シール.....1

## RX-78-2 ガンダム組立図







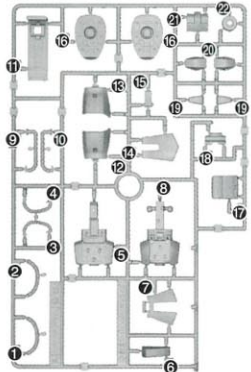


# MS-06 量産型ザク パーツリスト

(X印は使用しないパーツです。)

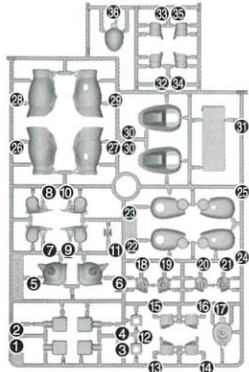
## Aパーツ

(スチロール樹脂: PS)



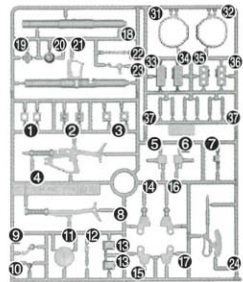
## Bパーツ

(スチロール樹脂: PS)

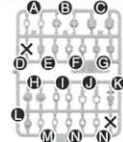


## Cパーツ

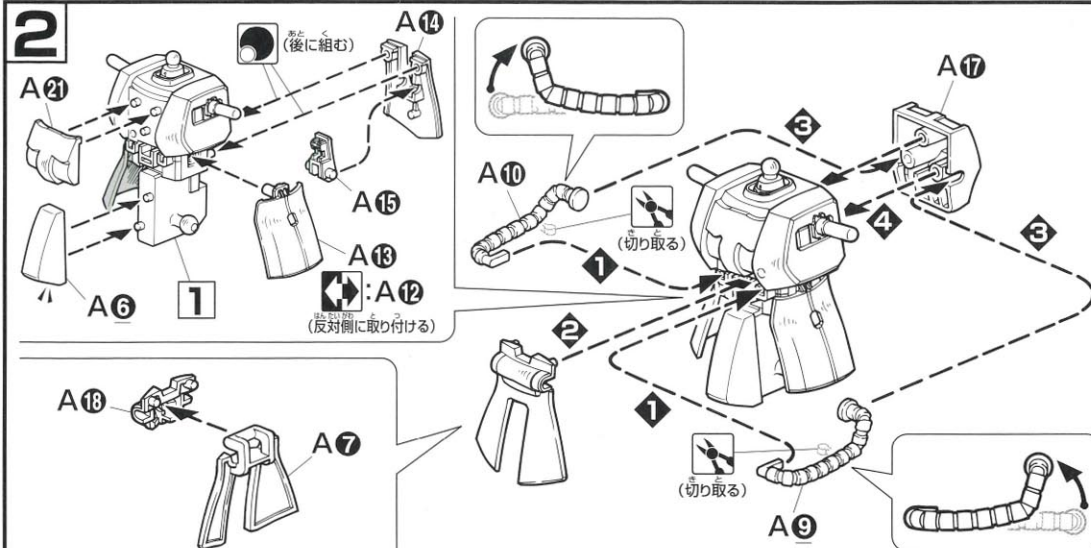
(スチロール樹脂: PS)



〈PC-123プラス〉  
(ポリエチレン: PE)

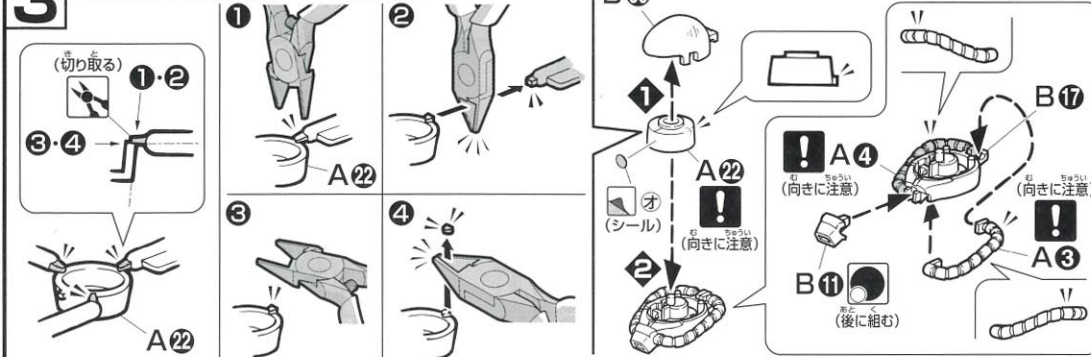


## 2

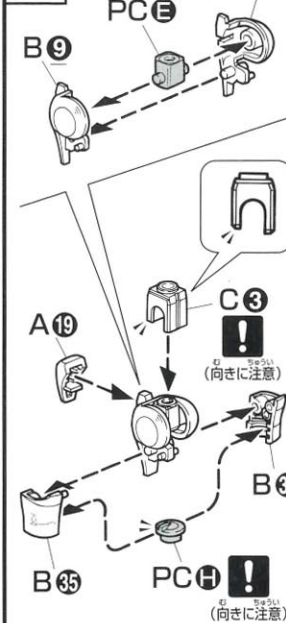


## 3

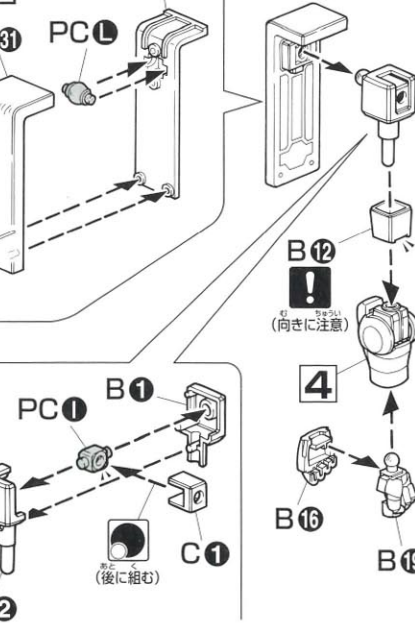
※ A22は下の図のように切り取ります。



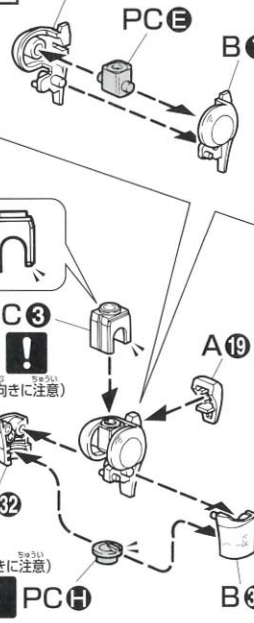
## 4



## 5

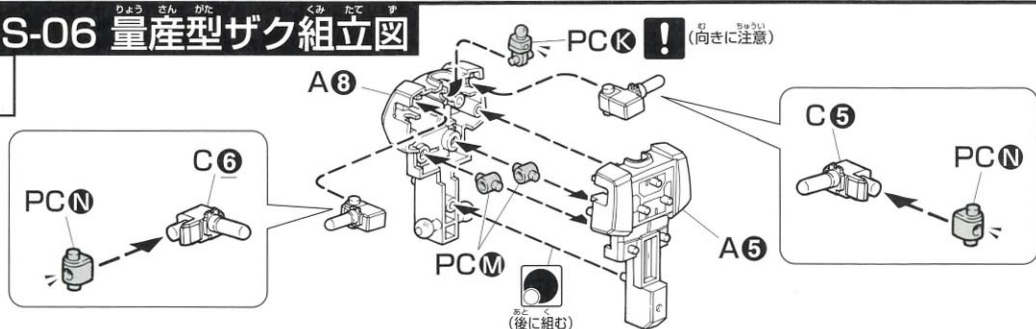


## 6



# MS-06 量産型ザク組立図

## 1





**7** B6  
PCN  
B3  
PC1  
C1 (後に組む)  
B4

**8** 3 作った頭部  
2 作ったボディ  
5 作った右腕  
7 作った左腕  
B30  
PCG  
A16

**9** x2  
2個作る  
B30  
PCG  
A16

**10** <上から見た図>  
PCB  
B23  
A1  
B25  
C13  
PC1  
90° (90°回す)  
(切り取る)

**11** PCG  
C2  
C16  
PCA  
C17  
C13  
PC1

**12** PCF  
B26  
B27  
11  
9  
C34  
C32  
C35  
(向きに注意)

**13** C34  
C32  
C35  
(向きに注意)

**14** 13  
12  
10  
A20  
C37 x3 (3個入れる)

**15** <上から見た図>  
B22  
PCB  
B24  
A2  
C13  
PC1  
(切り取る)  
90° (90°回す)

**16** C2  
PCG  
PCA  
C14  
C15  
C16

**17** (向きに注意)  
C31  
C33  
C36  
C37 x3 (3個入れる)  
B28  
PCF  
B29  
B28  
16  
A20  
15  
90° (90°回す)  
90° (90°回す)

**18** 8  
14 作った右脚  
17 作った左脚

**19** (向きに注意)  
C11 (向きに注意)  
C4・C8  
C10  
C12  
C9 (向きに注意)

**20** (切り取る)  
C23 (向きに注意)  
C18・C21  
C20  
C19  
C22 (向きに注意)

**21** 19 作ったザク・マシンガン  
B13  
B14 (反対側に取り付ける)  
B21  
B20 (反対側に取り付ける)

(反対側に取り付ける)  
B14  
B13  
20 作ったザク・バズーカ  
B21  
B20 (反対側に取り付ける)

**22** C24  
(選んで取り付ける)  
C7

(選んで取り付ける)  
45° (45°回す)  
90° (90°回す)  
(後に組む)



# ガンプラHowtoガイド

ガンダムvs.量産型ザク編

GUNPLA How to GUIDE  
GUNDAM vs. ZAKU II Edition

**HG**  
UNIVERSAL CENTURY



**GUNPLA**  
MADE IN JAPAN

これ一冊で  
ガンプラの基本がわかる!

電撃ホビーマガジン特別編集

※ここに掲載しているものは2010年6月現在の情報です  
BANDAI 2010 MADE IN JAPAN ●写真の完成品は塗装・改造作例です。 ●この商品には「HGUCガンダム」と「HGUC量産型ザク」が1セットずつ入っています。



## ガンプラHowtoガイド ガンダムvs.量産型ザク編



GUNPLA How to GUIDE  
GUNDAM vs. ZAKU II Edition



# CONTENTS

- 03 ガンプラを作るための基本
- 04 HGUCピクトリアルガイド ガンダム編
- 06 HGUCピクトリアルガイド ザク編
- 09 さらにカッコよく仕上げるためのステップアップガイド
- 13 ガンプラヒストリー —30年のあゆみ—



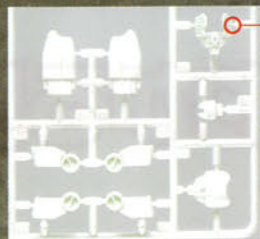
## ガンプラ基礎知識

まずはガンプラを作る前に基本的な各部位の名称を解説しよう。



### ランナー

プラスチック樹脂を流すためのレール部分。樹脂が走るのを“ランナー”と呼ぶ。



### ゲート

ランナーとパーツを繋ぐ部分。ここをカットしてランナーからパーツを切り離す。ゲートには写真のような通常のゲートの他に、刃物を使わずに手で取り外すことのできる“タッチゲート”やパーツの表面にゲートが露出しない“アンダーゲート”、そして切り離した後にゲート跡が目立ちにくい“クサビゲート”などがある。

# ガンプラを作るための基本キホン

ガンプラはニッパーさえあれば作ることができる親切設計なものが多いが、ここではさらにきれいに仕上げるための工具類や基本テクニックを紹介しよう。ほとんどが模型店などで入手できるものなので、ぜひ揃えておいてほしい。

(※本商品に工具類は付属していません。)



ニッパー

切るCUT

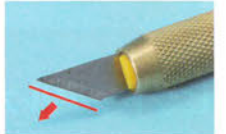
パーツをランナーから切り離す。模型用は刃先が小さく切れ味も鋭い。



アートナイフ

切るCUT

通常の Cutter よりも刃先が小さく切れ味も鋭い。ゲート跡の加工などに用いる。



※ナイフやCutterを使う時は刃の向きを体の外側に向けて使うこと。また刃の動線上には指を置かないように注意しよう。



## 基本工具 Tools

ガンプラをきれいに作るための基本工具を紹介しよう。刃先が鋭いものが多いので取り扱いにはくれぐれも注意してほしい。



Cutter

切るCUT

アートナイフがない場合や、大きめの切り出しや加工に使用する。



ピンセット

その他 OTHERS

シールや細かいパーツをつかむのに重宝する。



綿棒

その他 OTHERS

シールのパーツへの圧着や、スミ入れの拭き取りなどに使う。



つまようじ

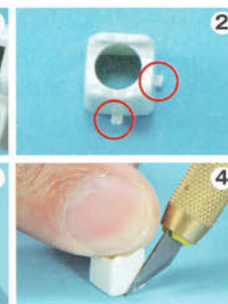
その他 OTHERS

シールをパーツにしっかりと固定するために使用する。一般にあるものでOK。

## 工作の基礎

パーツをランナーからきれいに切り離す手順と、失敗しないポリキャップのはめ込み方を解説しよう。

### パーツの切り出し方



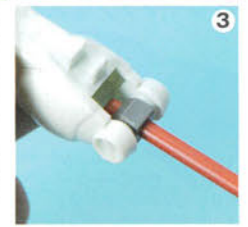
- 1 ①まずニッパーの刃を入れやすい方向からランナーに差し込み、パーツを切り出す。
- 2 ②写真のようにゲートを残してパーツを切り離すとよい。
- 3 ③その後さらにニッパーでゲート跡をさらに短く切り詰める。
- 4 ④最後に残ったゲート跡を、アートナイフなどの鋭利な刃物で慎重に切り落として完成。

※カッティングマット等を下に敷いてください。

### ポリキャップをはめ込むコツ



- 1 ①ポリキャップはしっかり決められた位置に差し込まないと写真のように軸が潰れてしまうことがある。
- 2 ②こういった失敗を防ぎ、うまくポリキャップをはめるコツ。まずパーツにポリキャップを固定したらランナーの切れ端を穴に差し込む。
- 3 ③差し込んだランナーでポリキャップをスイングさせながら外装パーツを組み付けると、失敗せずにポリキャップをはめ込むことができる。





# HGUC 解説書完全補足 Pictorial Guide

RX-78-2 GUNDAM

## ピクトリアルガイド ガンダム編

「RX-78-2 ガンダム」をよりカンペキに組み上げるための写真付きガイド。製作工程の中で間違いやすいポイントを中心に詳しく解説していこう。



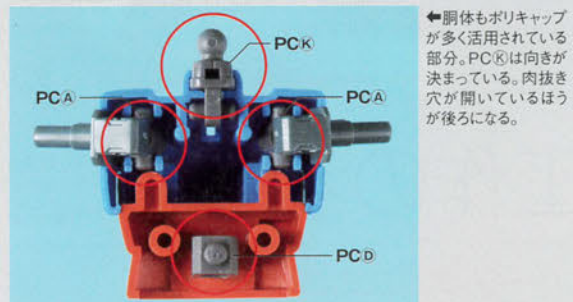
## LEGS 脚部



## ARMS 腕部



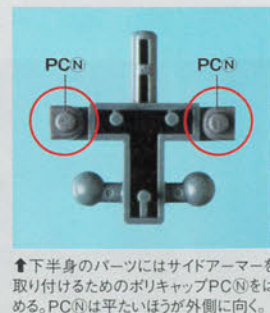
## BODY 胴体



### CHECK!! 少しの加工で肩関節パーツは組み立て後のはめ込みが可能に!



## BODY 胴体



### CHECK!! フロントアーマーは簡単に分割できる!

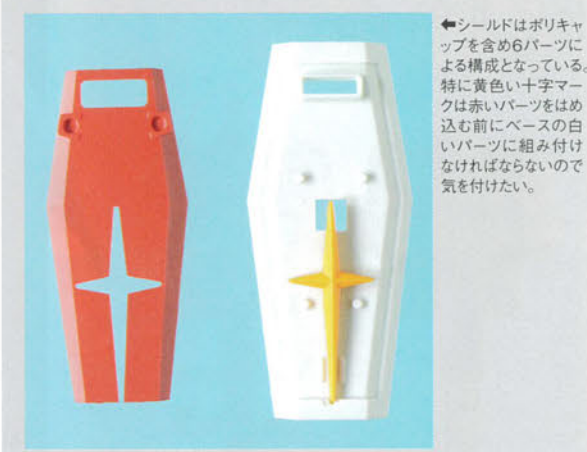


## HEAD 頭部

### カメラアイのシールをきれいに貼るコツ!



## SHIELD シールド

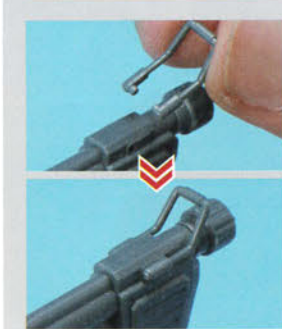


## BEAM RIFLE ビーム・ライフル



## HYPER BAZOOKA

### ハイパー・バズーカ



### ポリキャップを入れ忘れたら...





# HGUC 説明書完全補足 Pictorial Guide

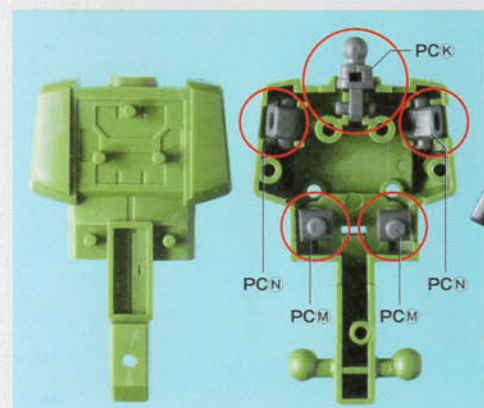
MS-06 ZAKU II

## ピクトリアルガイド ザク編

「ガンダム」同様にポリキャップの向きやザク特有の動力パイプのはめ方など、いくつかのポイントがあるので確認してほしい。



## BODY 胴体



↑胴体はポリキャップが合計5個入る。ポリキャップを見せるため、肩関節パーツのC⑤⑥は外してあるので注意してほしい。こちらも首用ポリキャップは前後で向きが決まっているので、しっかり確認してから組み込むようにしよう。

### CHECK!! 肩関節パーツは少しの加工で最後にはめ込むことが可能に



こちらの肩関節パーツも「ガンダム」同様に少しだけ、軸をカットするだけで胴体を組み上げた後はめ込むことが可能になる。ただし、軸は切り過ぎると保持力が低下するので注意したい。

### 動力パイプは指で曲げてから取り付ける!



胴体の動力パイプは指でカーブを付けた後に本体側に取り付ける。まずは軽く指で曲げて本体の前面に固定。その後ランドセルで背面側を固定すれば完成となる。

## HEAD 頭部

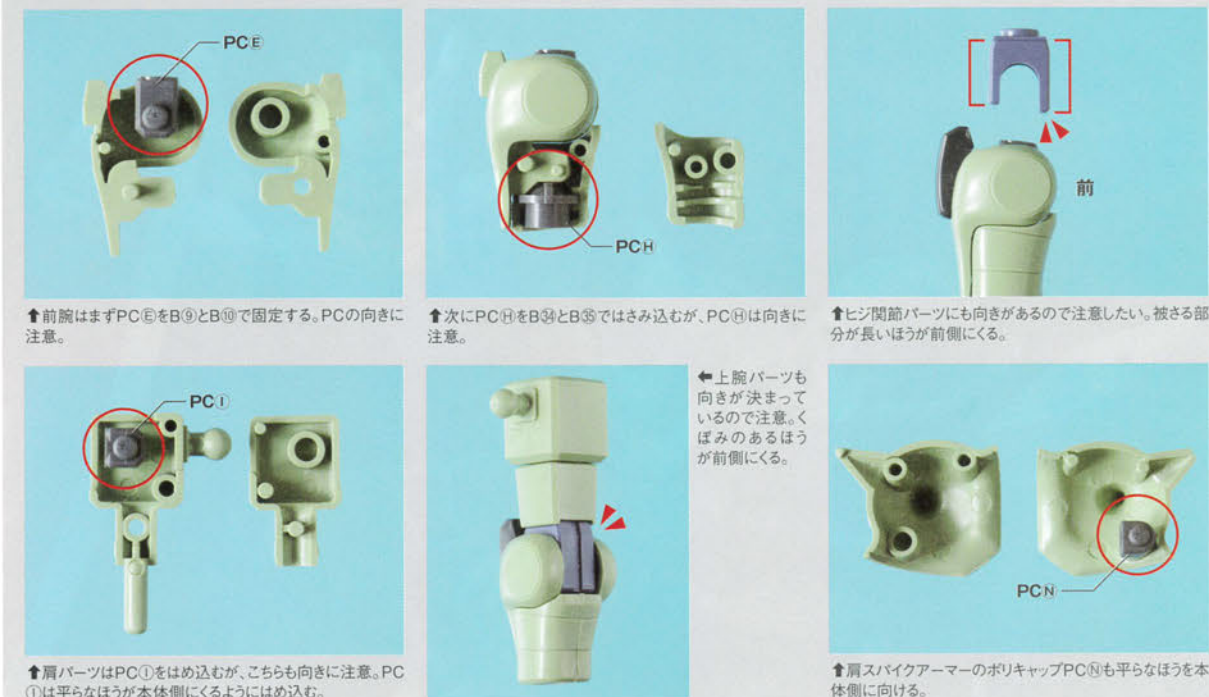


↑頭部の動力パイプは左右で形状が違うので注意したい。前後でしっかり本体に固定してからダクトのB①やヘルメットパーツのB②をはめ込む。

### モノアイ基部はアンダーゲート!

↑頭部モノアイ基部はゲート跡が露出しないアンダーゲートになっている。一旦写真①のようにランナーからパーツを切り取り、残ったアンダーゲートの銀色に塗った部分をニッパーで丁寧に切り取る(写真②)と完成だ(写真③)。

## ARMS 腕部



↑前腕はまずPC EをB⑨とB⑩で固定する。PCの向きに注意。

↑次にPC HをB⑭とB⑮ではさみ込むが、PC Hは向きに注意。

↑ヒザ関節パーツにも向きがあるので注意したい。被さる部分が長いほうが前側にくる。

↑肩パーツはPC Iをはめ込むが、こちらも向きに注意。PC Iは平らなほうが本体側にくるようにはめ込む。

↑上腕パーツも向きが決まっているので注意。くぼみのあるほうが前側にくる。

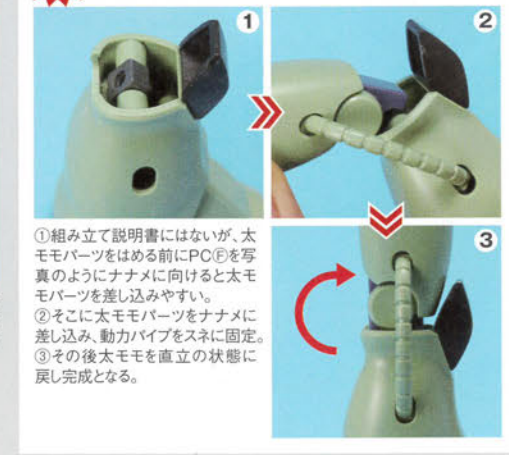
↑肩スライクアーマーのポリキャップPC Nも平らなほうを本体側に向ける。

## LEGS 脚部



↑ヒザの関節パーツ。まずはパーツC⑩にPC Jを下から差し込んで固定する。

### CHECK!! 太モモとスネの接合



①組み立て説明書にはないが、太モモパーツをはめる前にPC Eを写真のようにナメに方向けると太モモパーツを差し込みやすい。  
②そこに太モモパーツをナメに差し込み、動力パイプをスネに固定。  
③その後太モモを直立の状態に戻し完成となる。

## WEAPONS 武器



↑3連装ミサイルポッドはミサイルポッド本体の上方に切り欠きがあるほうが上にくるので注意。

↑ザク・マシンガンはフォアグリップは一見わかりづらいが、はめ込む向きが決まっている。マシンガン本体の接続ピンの長さが上下で違う(上のほうが短い)ので、それに合う向きで取り付けよう。

↑ザク・バズーカのスコープも向きがある。写真のように接続付近に凹みがあるほうが下にくる。



# RX-78-2 GUNDAM



# MS-06 ZAKU II

1/144 scale plastic kit "High Grade Universal Century"  
modeled by Narihito Hasegawa

# Step Up Guide



## さらにかっこよく仕上げるためのステップアップガイド

組み立てて付属シールを貼るだけでほぼ劇中のイメージどおりに仕上がるHGUCシリーズだが、ここからはさらに一歩進んで、パーツどうしの合わせ目の処理やスミ入れなどのステップアップ法を紹介していこう。

### Step 1 パーツどうしの合わせ目を消す

パーツを組み合わせて各部を再現するガンダムには、一部設定にはないパーツどうしの合わせ目が露出する部分がある。ここを接着して紙ヤスリなどで削りこむことで目立たなくしてみよう。

➡使う工具は①プラスチック用接着剤②紙ヤスリ(600番・1000番)とそれにプラ板のあて木を両面テープで固定したもの。紙ヤスリは短冊状に切っておくよ。

※接着剤は閉め切った室内では使用しないでください。中毒になる危険があります。



↑ガンダムの太モモパーツで実践しよう。まずは接合面に接着剤を塗る。余分なところに接着剤が付着しないように注意する。



↑接着剤はパーツの左右両面に塗る。



↑接着剤を塗り終えたらその接着剤が乾燥しないうちにパーツどうしを接合。両手で持って接合面からムニュッと溶けたプラスチックがはみ出してくるくらいまで強く押す。



↑丸一日(24時間)ほど乾燥させたら、はみ出したプラスチック部分を600番の紙ヤスリで削り落とす。面が平たい部分は紙ヤスリにあて木をしたものを使うとよい。



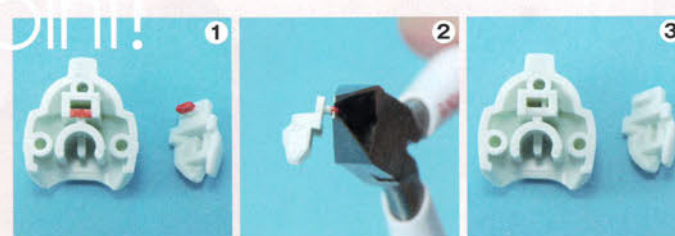
↑次に1000番の紙ヤスリで表面に付いた傷をならしていく。



↑きれいに傷が消えたら完成。ほとんど合わせ目は目立たなくなった。

### フェイスパーツの後ハメ加工

“後ハメ加工”とは本来、はさみ込みで組み付けるパーツを、各部を組み上げた後にはめられるように加工すること。「ガンダム」のフェイスパーツがそれにあたる。このパーツで“後ハメ加工”を実践してみよう。

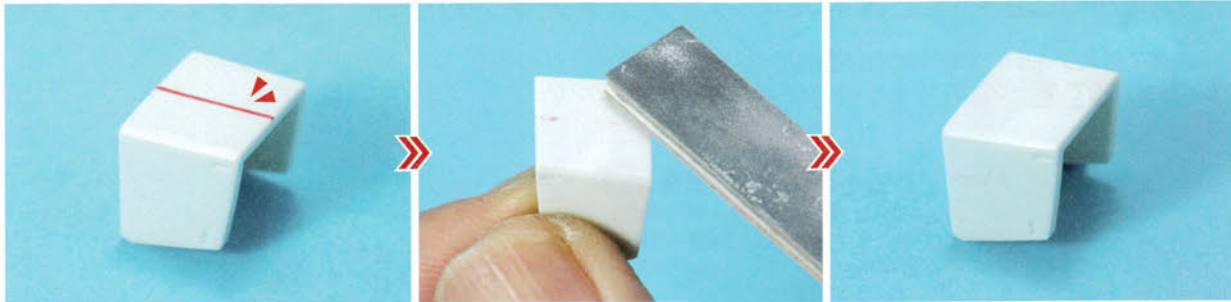


①マーカーで塗った接続部分を削るとヘルメットを組み立て後にフェイスパーツを後ハメできるようになる。  
②フェイスパーツはニッパーで接続ピンをカットするが、写真のように少し残しておくヘルメットの接続部に引っかかり不必要に奥まで入り込まなくなる。  
③余分な部分をカットしたところ、写真のようにすることで、ヘルメットを接着、パーツの合わせ目を消し、フェイスパーツを塗装後に組み込めるようになる。



## Step 2 パーティングラインを消す

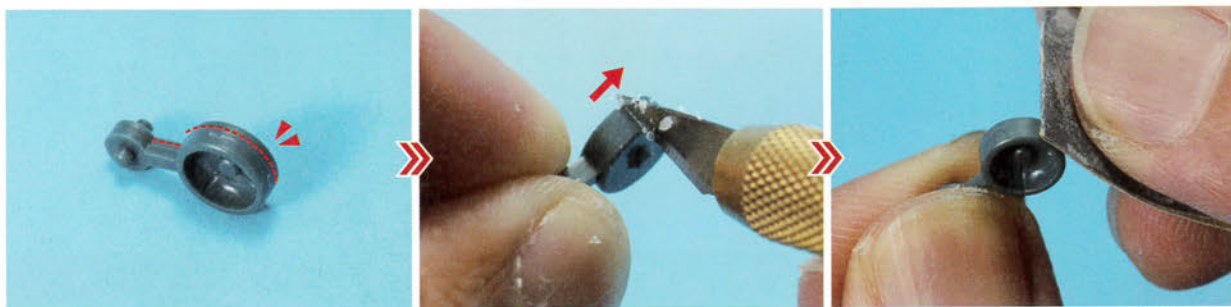
「パーティングライン」とは成形段階でできる金型の接合面の跡をいう。ここも処理することでグンと完成度が上がるのだ。



↑「ガンダム」では肩アーマー上面にパーティングラインが露出する。

↑こういった平らな面はあて木をした紙ヤスリで削るとよい。写真は600番を使用している。

↑パーティングラインが消えたら1000番の紙ヤスリでヤスリの傷をきれいに消して完成。



↑今度はビームライフルのスコープのような曲面に露出するパーティングラインを消してみよう。

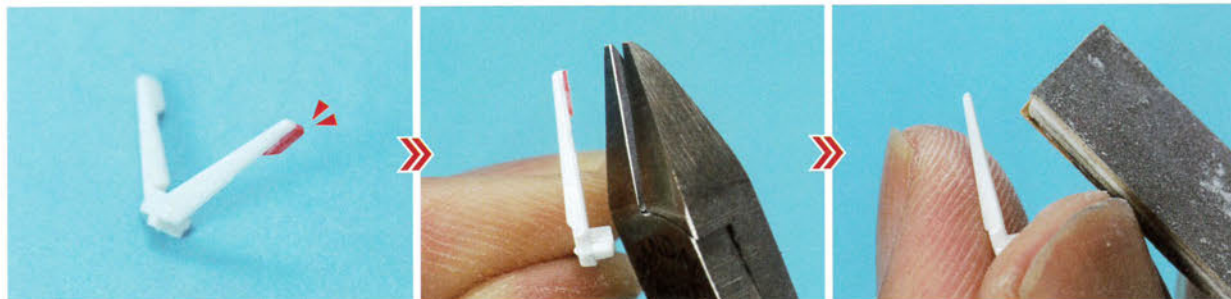
↑こういった部分はアートナイフの刃を垂直に立ててカンナ掛けの要領でパーティングラインを削ぎ落とししていく。

↑最後に1000番の紙ヤスリできれいにすれば完成。

## Step 3 アンテナをシャープに削り込む

「ガンダム」の頭部のV字アンテナやザクの指揮官機ブレードアンテナなどは、安全面を考慮して先端部に突起を設けている。ここを削り落とすことで劇中のようなシャープなアンテナを再現してみよう。

※アンテナをシャープにした場合、先端で思わぬケガをする可能性があります。取り扱いには十分注意し、小さなお子様の手の届かない場所に保管してください。



↑「ガンダム」のV字アンテナで実践してみよう。削り取る部分はマーカーで赤く塗った部分。

↑まずはニッパーで大まかに赤く塗った部分をカットする。少し赤い部分を残しておく。

↑次にあて木をした600番の紙ヤスリでカットした跡を平らにならしていく。平らになったら同じく1000番の紙ヤスリで表面をきれいに仕上げたら完成だ。

### Point!

パーツのフチを薄く削り込むとスケール感が増すことも。ここではフチを削り込んで装甲(パーツのフチ)を薄く見せる技法を紹介しよう。



①「ザク」の脚部フレア部分は写真のように断面の幅が1ミリ以上の厚みになっている。  
②まずは大まかにアートナイフでフチをナメに削り込んでいく。削り過ぎないように少しずつ作業を行う。  
③大まかに削り終わったら600番の紙ヤスリを手で丸くほぐして、削り跡を均一に整えて完成。

## Step 4 部分塗装をしてみよう!

キットでは付属シールなどで再現されている部分をガンダムマーカーで塗装してみよう。

※塗料は閉め切った室内では使用しないでください。中毒になる危険があります。

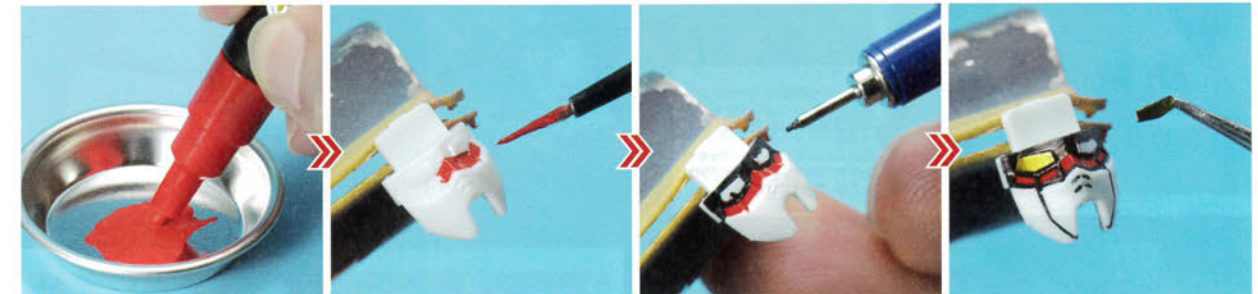
→使う道具は「ガンダムマーカー」(GSIクレオス)と面相筆、そして塗料皿。



↑「ガンダム」の首の部分をグレーで塗ってみよう。まずはペン先を立ててまわりを塗っていく。ここは最終的に黄色いパーツで隠れてしまう部分なので、それほどはみ出しは気にしないでよい。

↑次にペン先を寝かせて広い部分に色を載せていく。あまり塗り重ねないように一気に仕上げていくとよいだろう。

↑塗り終わったら完全に乾燥するまで待って黄色いエリパーツを被せよう。



↑「ガンダムマーカー」のペン先が入らないようなフェイスパーツ部を塗ってみよう。まずはマーカーを塗料皿に押し付けて塗料を皿に移す。

↑塗料を筆ですくって塗っていく。はみ出したらアートナイフではみ出し部分を削り取ってやるとよいだろう。また、使用後の筆は専用のうすめ液などで塗料をしっかりと拭き取る。

↑マーカーが乾いたら、次に目のクマドリ部分を「ガンダムマーカー スミいれ用(ブラック)」で塗っていく。はみ出した部分は乾く前に綿棒で拭き取る。

↑ツインカメラは付属のシールを活用。目の部分だけアートナイフで切り取ってピンセットで丁寧に貼る。最後に綿棒などでしっかり定着させれば完成だ。

## Step 5 スミいれをしてみよう!

よりモールドを際立たせるために「ガンダムマーカー スミいれ用」でスミいれをしてみよう。

→スミいれには「ガンダムマーカー スミいれ用」を使用。通常の細ペンタイプのほかに、ふでペンタイプも販売されている。



↑白いパーツのモールドにはグレーで色を入れるとよい(写真ではペンタイプのものを使用)。まずはモールドに色を入れていく。

↑塗料がはみ出したら完全に乾き切る前に、綿棒などで余分な部分を拭き取る。はみ出し部分がこわくなら指の腹で擦ってやってもよい。

↑スミいれの塗料はパーツの成形色で変えたり自然にモールドを浮き立たせることができる。写真では白いパーツをグレー、赤いパーツにはブラウン、青いパーツにはブラックを使用している。



# 上級テクニックで完成!

合わせ目・スミ入れ・汚し塗装で仕上げる

前項のステップアップテクニックに加え、トップコートの吹き付けと「ガンダムマーカークラウド」(GSIクレオス)による汚し塗装を加えた完成見本を紹介しよう。わずかな部分塗装と加工だけでも、ここまで仕上がるので、腕に覚えのある方はぜひ挑戦してみてください。

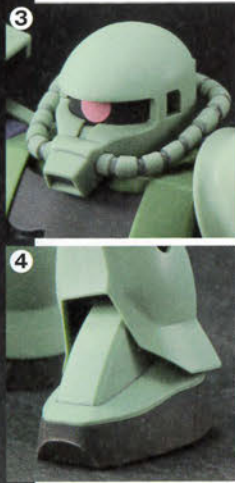


①ガンダムは頭部の後ハメ加工とアンテナのシャープ化、フェイス部の部分塗装やスミ入れなどを行っている。  
②足は「ガンダムマーカークラウド」のマットブラウンで汚し塗装を施している。



# GUNDAM vs. ZAKU II

製作:長谷川成人



③ザクの頭部は動力パイプにスミ入れをすすとグッと引き締まった印象に。  
④脚部はフレア部を削り込んでフチを薄く加工。またガンダムと同じく汚し塗装を施している。  
⑤「ガンダムマーカークラウド」は6色セットで、今回使用したマットブラウンの他にスス汚れやサビなどを表現できるカラーも揃っている。

# GUNPLA 30th

## ガンプラ歴史—30年のあゆみ—

1980年7月。番組放映終了から半年以上が過ぎてからのプラモデル化という、当時のキャラクターモデル事情からすると、ありえない状況からの製品化となった「ガンプラ」は、またたく間に大ヒット商品となり、熱狂的な「ガンプラブーム」となっていく。その後様々な技術革新や映像作品との連動で、ブームが沈静してからもガンプラは作り続けられ、誕生から30年を過ぎても、未だに新しいアイテムがリリースされている。ここでは、そんなガンプラ30年の歴史を振り返ってみよう。

### 1979年 » ガンプラ誕生前夜

この年の4月「サンライズ製作のテレビアニメーション『機動戦士ガンダム』」が放映開始。ハイティーンのアニメファンを中心に高い支持を得るが、視聴率や関連グッズの不振により、翌年1月に放映終了を迎える。従来のキャラクター商品であれば、以後の商品化はないというのが当然のはずだった……。



### 1980年 » ガンプラ誕生!

ガンプラの第1作目として、1/144「ガンダム」と1/100「ガンダム」が7月にリリース。さらに12月には1/60「ガンダム」「シャア専用ザク」も発売(※)。この「スケール表記」は以後の基準となる。また、この年は1/144「シャア専用ザク」「グフ」「量産型ズゴック」、1/100「ドム」が主役側のMSよりも先に商品化。当時としては異例の事態だったが、多くのファンに受け入れられ、「ガンプラブーム」の火付け役となった。



※1/60スケールの関節の一部には、すでに「ポリキャップ」が使用されている。

### 1981年 » 登場MS、フルコンプリート!?

前年で兆しがあった「ガンプラブーム」が本格化。全国でガンプラの品薄状態が続いていた。同時に新製品のリリースも続き、同年中に「量産型ゲルググ」を除くMSが1/144で揃っている(※)。また、この年発売された1/144「ジム」「旧型ザク」は「ガンダム」「ザク」の改修版の側面もあり、改造ベースとして使用された。



※当時の設定でデザイン上はリックドムと差がなかった「ドム」のみ、1/144で商品化されていない。同じ理由で1/100「リックドム」も存在しない。

### 1982年 » 番組未登場MSまで発売!

「ジオング」を除き、1/100でも登場MSが揃ったこの年。さらに盛り上がりを見る「ガンプラブーム」を前に、「作るアイテムがほとんどない」状況になっていた。そのため、この年の前半には大河原邦男氏のイラストをイメージした「リアルタイプシリーズ」を展開。後半にはテレビ本編に未登場のMS4体の商品化にも踏み切った。これらの「テレビで見たことがない」MSの商品化とその成功が、翌年新たな展開を生むことになる。



### 1983年 » MSV (モビルスーツバリエーション) 始動!

ほぼすべてのメカを商品化してなお沈静化をみせない「ガンプラブーム」を前に、新たに打った一手が「MSV (モビルスーツバリエーション)」だ。「ガンダム」の「リアル感」を推し進め、「作品中では描かれなかった機体も存在した」という前提でシリーズを展開(※)。これがユーザーに「オリジナル改造」という楽しみ方を与えることになる。



※これらの商品は、ほぼすべて新規に全型が起こされた。そのため、テレビシリーズ初期のアイテムのリファイン版的な側面も持つ。

### 1984年 » MSVの完結。そして…

当時「コミックボンボン」誌上で、爆発的な人気を誇っていた「プラモ狂四郎」から「パーフェクトガンダム」が、MSVのカテゴリでリリースされた。ガンプラで初めてのコミック発のアイテムだ。一方、「MSV」シリーズの新たな展開として、一年戦争終戦直後を描く「MS-X」シリーズがこの年の4月に発表される。しかし、同年末、「Zガンダム」の制作が発表されたことで「MS-X」は幻のシリーズとなる。



1/100 パーフェクトガンダム 1984年12月発売  
MS-Xシリーズ ※写真は当時発表された「アクトザク」の試作原型

### 1985年 » Zガンダム、放映スタート

「ガンダム」の続編として放映が始まった「機動戦士Zガンダム」。待望の続編ということで、培われた技術が注がれ、ガンプラで初めて「ポリキャップの標準装備」を実現。可動範囲の保持が格段に向上し、作中で描かれた可変機構の再現に役買っている(※)。また、大型と複雑化するMSに併せて、1/220、1/300もリリースされた。



※ただし、1/144「ゼータガンダム」は変形機構の複雑さから、1/60「ゼータガンダム」では保持力の問題から変形が省略された。  
1/100 ゼータガンダム 1985年10月発売  
1/300 サイコガンダムMk II 1986年4月発売

### 1986年 » ZからZZへ

「Zガンダム」その続編としてスタートした「機動戦士ガンダムZZ」。主役側の新型MSが「ダブルゼータガンダム」だけだったこともあり、シリーズは敵側を中心に展開。サイズも1/144が大半で、1/100では「ダブルゼータガンダム」がリリースされたこととなった。シリーズ全体の基本仕様は「Zガンダム」シリーズとほぼ同様。一部に「MSV」の色替えアイテムなどもリリースされた。



1/100 ダブルゼータガンダム 1986年7月発売  
※複雑な変形機構を差し替えて再現  
1/144 パウ 1986年8月発売  
※1/144で設定どおりに分変形を再現

### 1987年 » ガンプラ離れの時期

前年11月の「ガンダムZZ」シリーズ終了を受け、模型主導の「ガンダム・センチネル」が発売された。7月には1/144「フルアーマーダブルゼータガンダム」がリリースされたが、年末に「逆襲のシャア」がシリーズ開始するまで、この年のガンプラはこの1点にとどまった。30年にわたるガンプラの歴史の中で、1年間、完全新規金型の商品がリリースされなかったのはこの年だけである(SDガンダムBB戦士を除く)。しかしこの後ガンプラはさらに飛躍する。



1/144 フルアーマーダブルゼータガンダム 1987年7月発売  
※1/144「ダブルゼータガンダム」に追加装備を加えた内容  
1/144 レガンダム 1987年12月発売

### 1988年 » 逆襲のシャア、スタート

ガンダム初のオリジナル劇場作品「機動戦士ガンダム 逆襲のシャア」が3月に公開。ガンプラはそれに先駆けて、シリーズを展開し、ほぼすべての登場機体が商品化された。このシリーズはガンプラで初めて「スナップフィット」(一部ビス止め)を採用。同時に復活した「いろいろプラ」とあわせて、以後ガンプラの標準仕様となっている。また、同年後半に展開された「ガンダム・センチネル」シリーズではスナップフィットがより完全なものになっている。



1/100 レガンダム ファンファンネル装備 1988年10月発売  
1/144 Ex-Sガンダム 1988年11月発売

### 1989年 » 「ポケットの中の戦争」始まる

OVA「機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争」に併せて商品を展開。このシリーズでは、機体ごとにポリキャップを設計、クリアカラーパーツを初採用した。同年後半の「モビルスーツ戦国伝」では、「システムインジェクション」(※)を駆使した「MSジョイント」(※※)が採用されている。



※1パーツ多色成形技術。それを応用した1パーツ複合素材成形にも用いられる。  
※ランナーから切り離すだけで動かすことのできる可動フレーム。  
1/144 ガンダムNT1 1989年8月発売  
※ランナーから切り離すだけで動かすことのできる可動フレーム。  
モビルスーツ戦国伝 武者頭無 1989年10月発売



**1990年** ▶ **ガンブラ10周年記念「ハイグレード」出る!!**

「ガンブラ10周年」を記念して開発された「HG(ハイグレード)」シリーズ。80年代のうちに確立したガンブラの基本技術の総決算的なアイテムになっているだけでなく、デザイン自体もリファインさせた点が「HG」のポイントである。これにより、ガンブラは「従来アイテムの技術的・デザイン的リファイン」という次のステージへと移行する。同年末には劇場版「機動戦士ガンダムF91」とその外伝的作品「F90」がスタートした。



1/144 ハイグレードガンダム 1990年3月発売  
1/144 ハイグレードゼータガンダム 1990年5月発売

**1996年** ▶ **「ガンダムX」「08小隊」同時展開**

「ガンダムW」の後番組「機動新世紀ガンダムX」とOVA「機動戦士ガンダム 第08MS小隊」を展開。主役側への人気集中に対して、「LM(リミテッドモデル)」(※)の「ジュニスカスタム」と「ドートレスカスタム」を投入。「08小隊」は以後3年にわたって長期展開された。「MG」では「ゼータガンダム」がリリースされている。



1/100 Gファルコンエクス ホムダダブルエクス 1996年11月発売  
1/144 RX-79(G)陸戦型ガンダムMS-06J ザクII 1996年4月発売 ※1/144スケールの2in1ボックス。ザクII型は後に単品発売もされた。

※簡易成型で低コスト化したのが、単色成形、要接合などで製作時のハードルは高め。第1弾は「エヴァンゲリオン初号機」。

**1991年** ▶ **「F91」「0083」、同時展開**

劇場作品「機動戦士ガンダムF91」とOVA「機動戦士ガンダム0083 スターダストメモリー」の2作品に併せてガンブラも展開。「F91」(および「F90」)が各種技術を用いたハイオクティな内容だったのに対し、「0083」は当初「いるプラ」さえ使用しない展開だった。その背景にはガンブラの価格高騰を抑える意図があったが、「0083」や「HG」を経験したユーザーにとっては、やや物足りない内容だった。



1/100 ガンダムF91 1991年3月発売  
1/144 ガンダム GP01 1991年6月発売

**1997年** ▶ **「エンドレスワルツ」でウイング熱再び**

「X」の終了直後にリリースされたOVA「新機動戦記ガンダムW エンドレスワルツ」。この作品のためにリデザインされたガンダムに人気が集。3話のみのOVAだったにもかかわらず、新規デザインの機体がすべて1/100と1/144で商品化。同時に外伝的作品として1/144を中心に「新機動戦記ガンダムW デュアルストーリー Gユニット」も展開。こちらもすべて新規成型。「MG」の完全新規は「ガンダム試作1号機」のみ。



1/100 ウイングガンダムゼロカスタム 1997年4月発売 ※同シリーズは1/100のあとに1/144が出るという稀有な例となった。  
1/144 ガンダム Gユニット01 1997年5月発売

**1992年** ▶ **「シルエットフォーミュラF91」スタート**

「F90」に次ぐバリエーション企画として「シルエットフォーミュラF91」がスタート。新規成型のアイテムも多く、キットの仕様は「F90」などと同等にクオリティの高いものだった。同時に展開されていた「0083」では、「ステイメン」や「ガーベラテトラ」など、高品質のアイテムも登場した。



1/100 ガンダムRXF91 1992年5月発売  
1/144 ガンダムGP03Sステイメン 1992年5月発売

**1998年** ▶ **最高峰の模型、パーフェクトグレード**

前年に続き「エンドレスワルツ」「08小隊」「MG」の3ラインが展開。「エンドレスワルツ」は1/144の7体を2ヵ月連続でリリース。「08小隊」は「ガンダムイージーエイト」や「グフカスタム」など人気の機体が発売された。年末には、「PG(パーフェクトグレード)」(※)で「ガンダム」がリリース。同シリーズは、ギミックやパーツ数において「ガンブラ」の最高峰となっている。



1/60 パーフェクトグレードガンダム 1998年11月発売  
1/144 ウイングガンダムゼロカスタム 1998年4月発売 ※「ファイティング・アクション」と呼ばれるパーツの組み換えで、劇中ポーズの再現が可能。

※PG第1弾は「エヴァンゲリオン初号機」。

**1993年** ▶ **「Vガンダム」で豊富なラインナップが復活!**

「ガンダムZZ」の終了から6年ぶりの新作テレビシリーズとして「機動戦士Vガンダム」がスタート。「F91」に続きMSの設定は15m級だったが、「Vフレーム」の採用で1/144シリーズを主軸として展開、敵味方あわせて豊富なラインナップが組まれた。1/100では「ソリディア」を除き味方側のみの商品化だったが、「Vガンダム」「V2ガンダム」ともに差し替えながらも分離変形を再現していた。



1/144 ヴィクトリーガンダム 1993年5月発売  
1/60 V2ガンダム 1993年10月発売

**1999年** ▶ **Vガンダムスタート。1/144でもリファイン開始**

1/100(MG)、1/60(PG)に続き、1/144のリファイン企画として「HGUC(ハイグレードユニバーサルセンチュリー)」がスタート。過去に1/144で未キット化のアイテムを商品化する企画としても、多くのファンに高く評価され現在に至っている。この年は、「Vガンダム」終了から5年ぶりの富野由悠季監督による新作テレビアニメ「Vガンダム」もスタート。「ガンダム20周年」を記念した「ファーストグレード」もリリースされた。



1/100 Vガンダム 1999年7月発売  
1/144 ファーストグレードガンダム 1999年7月発売

**1994年** ▶ **「Gガンダム」で若年層の心を鷲掴み!!**

「Vガンダム」の放映終了後にスタートした初の「宇宙世紀」ではない「ガンダム」作品「機動武闘伝Gガンダム」。登場機体のほとんどが「ガンダム」という異例な作品だったが、熱くわかりやすい物語で若年層を中心に高く支持された。1/144、1/100、1/60で展開されたが、敵も味方もガンダム」という状況から、主人公側のガンダムに人気が集し、ラインナップも主役側が中心となった。



1/60 Gガンダム 1994年10月発売  
1/100 マスターガンダム 1994年8月発売

**2000年** ▶ **HGUC、MG、ラインナップ増加**

「V」が終了し、映像作品が存在しない状況で、HGUCやMGのラインナップが増加。急速に内容が進化した「MG」では、スタートから5年目となるこの年、「ガンダム[Ver.1.5]」をリリース。他の新作アイテムと並べてもそれ色のない仕様へと、キット内容をレベルアップさせている。「HGUC」はこの年の後半に「0083」シリーズの未キット化アイテムを商品化。さらに「PG」では1000パーツ近い構成の「ゼータガンダム」が登場した。



1/100 マスターグレードガンダム[Ver.1.5] 2000年6月発売  
1/60 パーフェクトグレードゼータガンダム 2000年3月発売

**1995年** ▶ **ガンブラ15周年記念「マスターグレード」始動!!**

この年の前半は「Gガンダム」終了後の新番組「新機動戦記ガンダムW」がスタート。キャラクターに女性人気を集めた。MSデザインには兵器の要素が復活したが、「Gガンダム」同様、主役側の機体に人気が集し、年内に量産機がリリースされることはなかった。そして「ガンブラ15周年」となるこの年、遂に「MG(マスターグレード)」がスタートする。過去のキットを最新の技術でリメイクするこの企画は、今やガンブラのスタンダードブランドになっている。



1/100 ウイングガンダム 1995年4月発売  
1/100 マスターグレードガンダム 1995年7月発売

**2001年** ▶ **EXモデル、HGメカニクス スタート**

前年に続き映像作品のないこの年は、新たなブランドの開発が模索された。そのうちのひとつが、艦船や支援機などを立体化する「EXモデル」。もう一方が1/550スケールMAの復活を懸けた「HGメカニクス」である。「HGメカニクス」は「0083」に登場した当時未キット化MA3機をリリースした段階で現在休止状態だが、「EXモデル」は数こそ多くないものの、「ガンダム」に欠くことのできるサブメカたちを作り続けている。



EXモデル ジオン公国軍小型戦闘機「アップファイター」 2001年12月発売 ※1/144と1/100の2個セット  
1/550 HGメカニクスデンドロビウム 2001年7月発売

**2002年** ▶ **「ガンダムSEED」スタート!!**

10月の「機動戦士ガンダムSEED」の放映開始により、約2年半の「ガンダム」映像不在が解消。既存シリーズのリリースが続く一方、「SEED」でも1/144、HG(1/144)、1/100、1/60という4ラインが同時展開。特にエントリーユーザー向けの1/144では、放映前に「外伝用主役機」「ガンダムアストレイッドフレーム」がリリースされるなど、異例のスタートとなった。また「MG」では「ガンダム[Ver.Ka]」がリリース。大きな話題を集めている。



1/60 ストライクガンダム 2002年12月発売  
1/100 マスターグレードガンダム[Ver.Ka] 2002年12月発売

**2007年** ▶ **MG100体越え!「00」放映開始!!**

映像作品のない期間が約1年続いたこの年は、「MG」の新作ラッシュ。ファン待望の「J型ザクII[Ver.2.0]」に続き、8月には「MG100体目」の「マガンダム」、年末には小説出自の「ユニコーンガンダム[Ver.Ka]」がリリースされ話題を集めた。さらに、この年の後半にはテレビアニメ「機動戦士ガンダム00」の放映も開始。「SEED」シリーズと同様、1/144、HG、1/100、1/60の4ラインでの商品化が行われた(※)。



1/100 マスターグレードマガンダム 2007年8月発売  
1/100 マスターグレードユニコーンガンダム[Ver.Ka] 2007年12月発売

※1/144はエントリーユーザー向けに主役側の4機がリリースされたのみ。

**2003年** ▶ **SEEDの快進撃、続く**

好調なリリースを続けた「SEED」の影響もあり、この年の前半は「MG」以外の新作ラインナップが控えられている。そんななか、MG「Ex-Sガンダム」がリリース。「不可能」と言われた完全変形を実現し、歴代MGの中でも最多パーツ数を記録した。この年後半にはHGUC「ゼータガンダム」、PG「ガンダム試作1号機/フルバーニアン」などがリリースされたが、放映終了後も「SEED」の人気には衰えが見えなかった。



1/100 マスターグレードEx-Sガンダム 2003年3月発売 ※前年発売のMG「Sガンダム」に増加パーツを加えたアイテム。  
1/100 マスターグレードエルストライクガンダム 2003年10月発売 ※番組放映終了直後にリリース。当時のMGとしては異例の事態といえる。

**2008年** ▶ **MG「ガンダム[Ver.2.0]」出る!**

ガンダム初の2クール(半年)構成で、第1部の終了から半年後に続編がスタートした「00」。この休止期間中にも新作リリースが続き、セカンドシーズンがスタートした後も、違和感のない形でシリーズ展開が引き続き続いた。またこの年は「MG」で「ガンダム[Ver.2.0]」や「シナンジュ[Ver.Ka]」などの注目作がリリース。HGUCでも「リガンダム」や「サザビー」など、逆襲のシャア」を中心とする人気の高い機体が続々と発売された。



1/100 マスターグレードガンダム[Ver.2.0] 2008年7月発売  
1/100 ダブルオーライザー(ダブルオーガンダム+オーライザー) 2008年12月発売 ※前年発売された「ダブルオーガンダム」購入者のために「オーライザー」の単品発売も行われている。

**2009年** ▶ **「ガンダム」生誕30周年!!**

「ガンダム」30周年記念のHG「ガンダム Ver.G30th」が発売。同年、イベント展示された「実物大ガンダム立像」を模型化したもので、完全新規のガンブラでは初の期間限定生産品。この夏に劇場版の製作が発表された「00」も順調にリリースを継続。さらに、5年ぶりの完全新作PG「ダブルオーライザー」は初の「光る・回る」ギミックを搭載。MGでは「Vガンダム[Ver.Ka]」や「ガンタンク」。HGUCでは「ユニコーンガンダム」(2種)が発売された。



1/144 ハイグレードガンダム[Ver.G30th] 2009年7月発売 ※2010年3月で生産休止。  
1/100 マスターグレードVガンダム[Ver.Ka] 2009年12月発売 ※1/100での完全変形を実現。

**2004年** ▶ **「SEED」から「DESTINY」へ**

この年も「SEED」の人気は根強く、HGと1/144でテレビの主要機体を出したのちに、模型主導のバリエーション企画「SEED MSV」をスタートさせる。さらにこの年の後半には続編「機動戦士ガンダムSEED DESTINY」がスタート。「SEED」と同様、4ラインでの展開が進められた。また「MG」では歴代最小パーツ数となる「ボール[Ver.Ka]」、PGでは「ストライクガンダム」、HGUCでは「サイコガンダム」がリリース。



1/100 マスターグレードボール[Ver.Ka] 2004年12月発売  
1/144 ハイグレードザクウォリア 2004年11月発売

**2005年** ▶ **劇場版「新訳」「Zガンダム」公開**

この年は、前年から続く「DESTINY」を中心としたラインナップを展開。しかし、「SEED」のときは異なり、1/144の展開は途中で休止となり、HGが柱となっている。シリーズ全体としては、ガンダムと並ぶ人気を誇ったザクのバリエーションが数多くリリースされた。一方この年劇場版「ZガンダムII」が公開。「MG」「HGUC」はそれに併せたラインナップが組まれている。



1/100 マスターグレードゼータガンダム[Ver.2.0] 2005年12月発売  
1/144 ハイグレードユニコーンガンダム[Ver.2.0] ガブスレイ 2005年12月発売

**2010年** ▶ **ガンブラ30周年! さらなる発展へ!!**

1980年7月に「ガンブラ」が生まれてから30年。この年の前半に、イベント上映を経てDVD化された「機動戦士ガンダムUC」がHGUCの主力ラインナップとなっている。またHGUCに準拠した構成のHGFC「Gガンダム」やHGAW「ガンダムX」など、今後の展開が期待されるシリーズもスタート。もちろん、劇場公開を控えた「00」も「ガンダムダブルオークアタ」をはじめとする4機のガンダムのラインナップが予定されている。MGでは1995年のシリーズ開始当初からキット化候補に挙げられていた「フルアーマーガンダム」や「ジ・O」がリリース。さらに、新たなカテゴリーとして「史上最大のガンブラ」、1/48「メガサイズモデルガンダム」やバンダイの最高技術が注がれた「究極の1/144」、RG(リアルグレード)「ガンダム」のリリースに加え、「STARGAZER」に続く、WEB配信アニメの第2弾「模型戦士ガンブラビルダーズビギニングG」の連動アイテムなど、30年を経てますます目が離せない展開を迎えている。



1/48 メガサイズモデルガンダム 2010年3月発売 ※写真手前がマスターグレード(1/100)。  
1/144 リアルグレードガンダム 2010年7月発売 ※「アドバンスMSジョイント」や「リアリティックデカール」。“総数195点もの外装パーツ”など、1/144スケールを極限まで追求した内容。

**2006年** ▶ **ネット配信アニメ「STARGAZER」始まる**

「SEED DESTINY」終了後も新製品のリリースは継続。1/100「インフィニティジャスティスガンダム」や「レジェンドガンダム」は、同作品のメカ作画監督、重田智氏がコンセプトデザインを手掛けた。前半は劇場版「ZガンダムIII 星の鼓動は愛」との連動商品が続き、後半は初のネット配信アニメ「機動戦士ガンダムSEED CE.73 STARGAZER」に併せたMSV的な展開がなされた。またこの年後半はミラター感満載の1/35「U.C.ハードグラフ」もスタート。



1/100 インフィニティジャスティスガンダム 2006年5月発売  
1/35 ジオン公国軍 機動偵察セット 2006年9月発売



1/144 ハイグレードアフターガンダムX 2010年4月発売  
1/144 ハイグレードビギニングガンダム 2010年9月発売予定